



## 學 塾

### 幼兒の特質

文學士 松本孝次郎

幼兒にはいろ／＼の特質がある。非常に勇氣のあるもの、臆病なるもの、非常に潔癖なるもの、不潔を厭はぬもの、非常に順序正しきことを好むもの、亂雑を好むもの、あまり従順に過ぐるもの、反抗を好むもの、眞實を語るを好むもの、虚言をなすを好むもの、あまり殘忍なる傾あるもの、同情に富めるもの、自利的なるもの、他愛的なるもの、多辯なるもの、沈黙なるもの、公明正大なるを好

むもの、密に事を爲す傾あるもの、快活なるもの、沈鬱なるもの、美味を好むに過ぐるもの、大食なるもの、疑念深きもの、研究的精神に富めるもの、何事にも無頓着なるもの、何事にも氣むづかしきもの、種々の事を問ふを好むもの、想像作用に富むもの、神經質のものなど實に様々です。

之等の特質には善い側と悪い側と兩方がある。而して遺傳といふこともある事なれば只幼兒のみに責任を負はせることはできない。そこで教育者保育者は多勢を一時に扱ひながら一人々々を預つて居るやうに考ふことが必要である、而して幼兒に付てよく考ふると其特質は直ぐに分るものである。特質の中には發達させて良いもの、祇さへて良いもの、除くべきもの、補ふべきものなどいろいろあり、又保育教育する者の手にてなほるもの

と、醫者の手を借らねばできぬものとの二種がある、筋肉の不完全、神経系統の發達して居らぬものなどは醫者の手を借るべきもの、又精神的特質は教育者の手を待つべきものである。

醫者の手に任すべきものもいよゝ醫者の手に任せるまでは教育者の方ですべきものである、だから教育者は生理の方の特質の一斑も知るべきものである。

身体上の特質

之は入學の時又は入園の際に身体検査をすれば大抵は分ることですが又之より後に發見することもありませう。六才より九才の頃は心臟病に罹りやすく、十三四才の間は神経系統の病に罹りやすく、又遺傳性の病も此頃突然現はるゝことがある。又入學後兒童の境遇、讀む本などに由りて兒

童にいろいろの僻がつくものなれば時々身体の検査する必要がある。

兒童によくあるは疲勞である。何處ともなく見て居る、欠伸をする、下眼瞼を腫らせるなどは疲勞の状態で、之は遊ばせ過ぎて、働かせ過ぎて起ることで働と休息の度を失した爲である。而して疲勞がついくと恢復が六かしく發達に害があるから注意しなければならぬ。疲勞の外の特質は大抵身体検査の時に見ることができませう。

精神上的の特質

之は兒童を永く見て居るほどよく分つて來ることである。而してもしも教育者の知らぬうちに兒童が或行爲を幾度もくり返すと之が僻となり遂には特質となるものです。已に特質になつたのは教育者が早く見付けて矯正しなかつたからで其事をす

る度数が多ければ多いほどなほりにくいものである。特質となりしことを發見した頃にはもうおそい。故に教育者は特質を發見するのみならず、特質が作られつゝはあらぬかと絶えず注意し考ふることが必要である。而して悪き特質を發見したならば其特質を作つた原因を除くことが肝要である。それには病人を轉地させると同じやうに其兒に全く今までと違つた境遇を與ふることが必要である。

特質は遊戲の間に發見し又なほすことを得るものです。之は此時は自由であるから各兒は自分の特質を最も多くあらはすのである。故に教育者は此時には十分注意して特質を發見し又之を矯正することを勉むべきである。遊戲はかやうに体操とちがつた有益なところがある。即ち遊戲は只に愉

快を與ふるばかりでなく教育的の遊戲は愉快を與へながら教育するのである。体操は体育と訓育の一部分をするものであるが遊戲は愉快にしながら体育もしつてもするものである。即ち幼稚園にては作業にては主に眞面目にせしめ遊戲にては愉快にせしめながら教育の目的を達するのである。遊戲で笑へば心臟がよくはたらき又驅けると筋肉が發達する。又幼兒自身の知らぬ間に何時の間にか悪き性質はなほるのである。今日遊戲に付て一つ誤つて居る事がある。一体今日行はれて居る遊戲の内に動作遊戲又は表情遊戲といふものがあつて唱歌の詞の意を表はして動作をするのである。處が此動作をひやみにつけると教育上遊戲の効力を失ふのである。動作が自然的即ち何人が見てもよく分り、又何人でもそういふ風に動作するもので

あるならばよろしい。たとへば来い來いと言ふ時に手まねきをするのは人にも分り又何人でもそらいふ風にするから此動作は自然的である。こつといふ自然的動作を付したる遊戯は良いのである。處が其外に不自然の動作をまじへるのが随分多い。たとへば「上を見れば」といふのに目と首を上に向けるのは自然であるが手をも上ぐるのは不自然である。此不自然な動作が多くなると愉快は殺げ記憶するの骨が折れる。何も唱歌の全体を動作で表はすには及ばない、自然的動作で表はせるだけ表はせばよいわけである。又組を二に分けて一の組は歌ひ一の組は動作をすると歌ふ方は動作を見て樂み、する方は歌と動作の一致を見て樂むから不自然的動作を避けてこつといふ風にするのもよろし。

此頃いろく遊戯の本ができました佐藤福雄氏のは競走を元とし鈴木米次郎氏のは運動を音楽に合して居る。幼稚園などで初に行進ばかりで面白くないとすれば唱歌の内の動詞の處で表出をさせるがよろしい。たとへば「蓮の花開いた」と言へば開いたと言ふ處にて手を開くがよろしい。一体幼兒は詞を覺ゆるのに名詞を先に覺え動詞をあとで覺ゆるものである。だから動作に由て之を助くるのはよいことである

